

北区民まちづくり会議 次第

日時：平成28年3月8日（火）
午後6時30分～
場所：北区役所大会議室

1 開会

2 区長あいさつ

3 議題

(1) 北区基本計画—これから5年間のまちづくり—

『北区民つながるプログラム』について

[資料1](#) [資料2](#) [資料3](#)

4 その他

今後の北区まちづくり組織について [資料4](#)

5 閉会

<配付資料>

資料1 『北区民つながるプログラム』の意見募集の結果について

資料2 『北区民つながるプログラム』に関する自由意見と対応について

資料3 「北区基本計画—これから5年間のまちづくり—『北区民つながるプログラム』（案）

資料4 今後の北区まちづくり組織について

平成 28 年 3 月
 北区役所
 (担当 地域力推進室)

**北区基本計画 - これから 5 年間のまちづくり -
 「北区民つながるプログラム」の意見募集の結果について（報告）**

北区基本計画「はつらつプラン」（計画期間平成 23 年度～32 年度）の後期 5 年間のまちづくりの指針となる、「北区民つながるプログラム」の策定に当たり、実施した市民意見募集の結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

平成 28 年 1 月 4 日（月）～1 月 31 日（日）

(2) 御意見数

意見者数：243 人 意見総数：1477 件

(3) 御意見を頂いた方の属性

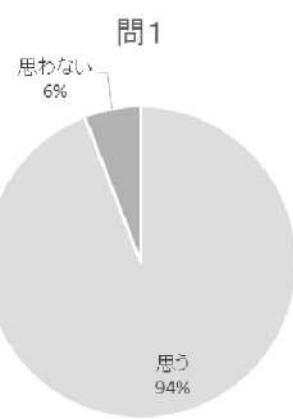
ア 性別 男性：116 人 女性：101 人 不明：26 人

イ 年齢 20 代：18 人 30 代：11 人 40 代：30 人 50 代：32 人
 60 代：73 人 70 代：50 人 80 代：10 人 不明：19 人

2 選択形式による回答の内容

問 1 現在の北区は、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちだと思いますか？

思う	225
思わない	14



<思う主な理由>

- ・緑が多く、賀茂川もあり、自然豊かでありながら便利
- ・自然歴史があり、教育及び治安など環境が良い
- ・地域の連携ができていて住みやすい など

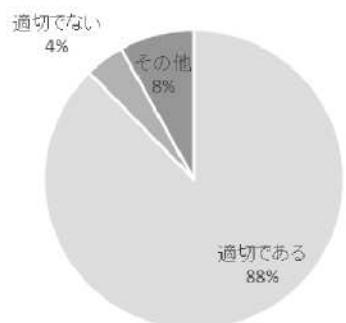
<思わない主な理由>

- ・上品だがファミリー向けの店舗が少ない。子どもの数が地域によってかたよっている。
- ・学生アパートの使い方が悪い
- ・交通の便があまり良くないため など

問2 あなたは、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちにするために、「人口減少への対応」「安心安全の向上」「若者・子育て世代等の地域活動への参加・参画促進」の3つの視点を重視することが適切だと考えますか？

適切である	206
適切でない	10
その他	19

問2



＜適切である主な理由＞

- ・人口減少への対応は急ぐ必要がある
- ・安心安全な場所、地域の活気がある所は住む場所を選ぶうえで重要な視点となると思うから
- ・地域の活性化をすることにより、地域力が強くなり、住みやすい環境の中で子育てを推進できるよう若い世代を育てていきたい など

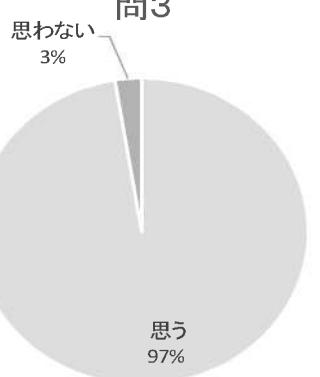
＜適切でない主な理由＞

- ・特に必要性を感じないので
- ・「人口減少への対応」は地域レベルの課題ではない。もう1つの視点をあげるとすれば「高齢化対応」だと思う。
- ・地域活動は強制できない。若い世代は共働き等で忙しい など

問3 あなたが「自然」、「地域コミュニティ」、「まち（産業・文化など）」といった北区の資源に関わりを深め、愛着や誇りを持てる環境に整えることが、北区を「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」まちにするとと思いますか？

思う	228
思わない	6

問3



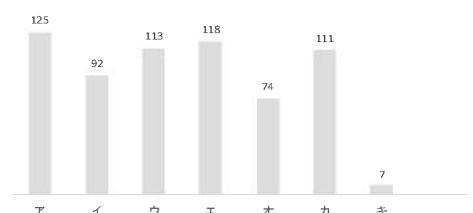
＜思う主な理由＞

- ・自然と人間が密接につながることの中から本来の地域コミュニティ、まちづくりが可能になると思うから
- ・個々の人が地域に愛着を持ち、そのような人が増えれば生活環境やおもてなしの質も高まっていくと思う
- ・自分の住んでいる地域に愛着、誇りを持ち続けられるように維持していくことが大切 など

問4 あなたと「北区の自然」をつなげる取組として、以下のようなものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつけてください。(複数回答可)

- ア 北区の木、森、川、田畠などの自然に関わる仕事や暮らし
を知る！ (回答数 125)
イ 身の回りの環境やごみ問題への関心を持つ！ (回答数 92)

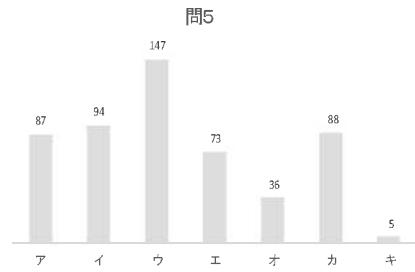
問4



- ウ 健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！（回答数 113）
 エ 子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！（回答数 118）
 オ 山間地との持続的交流を進める！（回答数 74）
 カ 豊かな自然環境の保全・継続に向けて関わる！（回答数 111）
 キ その他（回答数 7）

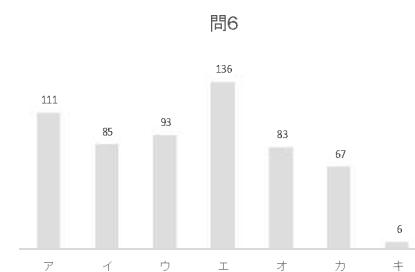
問5 あなたと「北区のまち（産業・文化など）」をつなげる取組として、以下のようなものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつけてください。（複数回答可）

- ア 多様なまちの魅力を知る！（回答数 87）
 イ 公共交通や公園などの有効な使い方を考える！（回答数 94）
 ウ 地域の歴史文化に触れる！（回答数 147）
 エ 産業や文化を身近に取り入れる機会づくり！（回答数 73）
 オ 何度も訪れる仕組みづくり！（回答数 36）
 カ 空き家を活かして、暮らしや文化に関わる！（回答数 88）
 キ その他（回答数 5）



問6 あなたと「北区の地域コミュニティ」をつなげる取組として、以下のようなものがあれば、「参加したい」「やってみたい」と思いますか。思うものに○をつけてください。（複数回答可）

- ア 移り住んだ人も、地域活動を知る！（回答数 111）
 イ 大学、学生と地域が、お互いを知る！（回答数 85）
 ウ 大学、学生の力を地域課題解決につなげる！（回答数 93）
 エ 世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！（回答数 136）
 オ 大学と地域が関わりあう！（回答数 83）
 カ 学区ビジョンの策定等を通して地域活動や自治会に関わる！（回答数 67）
 キ その他（回答数 6）



3 主な自由意見の内容

(1) 意見の反映について

関連する項目	A	B	C	合計
プログラム全般	1	20	17	38
「自然」とつながる	3	5	1	9
「まち」とつながる	3	6	1	10
「地域コミュニティ」とつながる	2	24	2	28
合計	9	55	21	85

- A プログラム（案）に反映する意見
- B プログラム（案）に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいている意見
- C 今後取組の推進に際して参考とするもの

Aの主な意見（9件）

- ・小学生と大学生の交流の場、子どもと高齢者のふれあいの場があればいいが、それをコーディネーターする人を育てる。
- ・一人暮らしの住民が住みやすいまちづくり。
- ・個人の商店街を活性化する。
- ・文化遺産などの場所を使ったイベントを行い、SNSで発信する。
- ・プログラムの進捗具合や客観的にわかるような成果目標を定める。

Bの主な意見（55件）

- ・人口減少にも耐えうるまちづくり。行政、福祉社協、住民のスムーズな連携。
- ・大学の多い地域でもあるので、もっと地域の人々とつながりが持てるとよいと思う。
- ・まず全員地域参加（町内会加入）が必要で第一歩でしょう。
- ・住んでいる人みんなが地域について関心を持つことが大事。
- ・60歳以上が健康づくりに気軽に参加できる場所（できれば無料）で、学区ごとにあれば良い。

Cの主な意見（21件）

- ・魅力ある北区に、北部の開発と交通網の充実をすることで多くの人が北区へ移住すると思います。
- ・具体的な方策を簡潔に住民に提示すべき。
- ・自分なりに理解できたと思うが、反面、具体的には見えてこない。
- ・18のプロジェクトが抽象的。

4 今後のスケジュール（予定）

3月8日 北区民まちづくり会議 最終案のとりまとめ

3月18日 広報発表、北区制60周年記念事業実行員会で報告

「北区民つながるプログラム」に関する自由意見の内容と対応

資料2

【対応】

- A 御意見の内容・趣旨をプログラムに反映する
- B プログラム案に賛同・期待・協力する、自ら取り組みたい等の御意見であり、いただいた御意見をふまえてプログラムを進める
- C 多様な観点からの御意見・御提案としてプログラムの推進の参考とする

番号	意見内容	分野	対応	御意見を踏まえての修正内容
1	・プログラムの進捗具合や客観的にわかるような成果目標を定める ・真のワークライフバランスを図る観点から、北区に居住する京都市職員が地域のまちづくりに率先して関わる仕組みを作る。	プログラム全般	A	「『北区民つながるプログラム』が掲げるまちづくり目標」の中で数値目標を記載する。(P12)
2	自然と動物⇒人間との共生。動物被害(いのしし、猿、シカなど)への対応と自然保護の両立が急務だと考える	「自然」とつながる	A	「O1北区の木、森、川、田畠などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！」で、「動植物」との「共存」を記載する。(P5)
3	今北山林業に携わる林業家が植林、枝打ち、間伐を止めて5年以上経過している。今後5年この状況が続ければ北山杉の景観はなくなる。北山林業の最後の5年と考える。北山林業を再建するには北山丸太が再生産可能な価格で販売されることが必要。現状売買では大きなメスを入れなければ終焉は近い。	「自然」とつながる	A	「O1北区の木、森、川、田畠などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！」でに林業を記載する。(P5)
4	北区は農地が多く残されている。保全や農業体験が出来る取組を。小学生にも農業体験が出来るように地域農業者と一体となって行うことが出来る組織作りを。	「自然」とつながる	A	「O4子どもや子育て世代が自然に触れる機会をつくる！」の中で農林業体験を記載する。(P6)
5	身近な所から利用し活用することからまちおこしをする方が良いと思う。例えば、昔の町並みから旧道を歩く	「まち」とつながる	A	「O9地域の歴史文化に触れる！」で、「身近なところにあるまちの魅力」を記載する。(P7)
6	個人の商店街を活性化する。	「まち」とつながる	A	「『まち』とつながる」の現状で商店街について記載する。(P7)
7	文化遺産があるので、もっとその場所を使ったイベントをして、SNSで発信してほしい	「まち」とつながる	A	「O7多様なまちの魅力を知る！」でSNSを記載する(P7)
8	小学生と大学生の交流の場、子どもと高齢者との触れ合いの場があつたらいいと思いますが、そのコーディネートをする人を育てないといけませんね	「地域コミュニティ」とつながる	A	「O17大学と地域が関わりあう！」の中で「関係を仲介する人」を記載する。(P10)
9	1人暮らしの住民が多くなってくるのではと心配されます。1人暮らしの住民が住みやすい町づくりに期待したいです。交通の便や買い物に行くのにも困難な人も出てくると思います。便利性の充実。医療関係の充実も期待したいです。	「地域コミュニティ」とつながる	A	「『地域コミュニティ』とつながる」の現状で一人暮らし高齢者について記載する。(P9)
10	人口減少にも耐えうるまちづくり。行政、福祉社協、住民のスムーズな連携	プログラム全般	B	

11	早く進めることが良いのではなく、一つ一つがしっかりと計画の下に関わるものが自然体で取組の中に入っていきやすい様に進めていただければよいと思います。	プログラム全般	B	
12	北区民のつながるプログラムは北区にとってとてもいい項目だと思います。住みよい北区として更に取り組んでください。私もできる限り協力していきたい。	プログラム全般	B	
13	北区民が自らやってみようと思える取組ならいいと思うが、個々の生活を越え、負担を感じたり、協力することに責任を感じたりしないような形で参加できるとよい。今あるものを大事にしながら、新しいものをとりいれるのに適切なものののみを作つてほしい(無駄なものはない)	プログラム全般	B	
14	人口減少という流れの中で、5年先を見据えて今とりかからねばならないことを問題にされていると思います。	プログラム全般	B	
15	地域産業や文化を守ることに注力するより、時代に合わせ変化することを工夫していただきたい。船岡山をもっと安心安全な場所として、子どもたちの自然教育や遊び場となる工夫をしてほしい。子どもたちだけで安心して遊べる場が少ない。	プログラム全般	B	
16	あれもこれも大切ですが、子どもたちの現在、未来を第一に考えるべき思います。放課後の遊び場所がありません。幼児用の小さな場所はありますが、高学年が野外遊び、スポーツができる場所が全くないのは不幸です。クラブ活動しない中学生達の心身の健全に早急に取り組んでほしいと思います。	プログラム全般	B	
17	自然と触れ合える環境、生活に便利、子育てしやすい場所、住んでいて楽しい場所であり、続けてほしいと思います。	プログラム全般	B	
18	安心安全まちづくりの環境づくり	プログラム全般	B	
19	狭い画面社会、饒舌、表面知識社会＝金太郎飴社会では「石橋を叩いて渡らない」人間集団になる。ゲーム社会と自然体験をいかに結びつけるか？そのため①公園や学校のグラウンドの子どもたちへの開放が必要、遊び場の提供②人口減少、高齢化社会は時の流れ、若者とシニアの人たちとの交流によって若者に日本(北区)の伝統文化や考え方を伝え、同時にシニアの人たちの存在、活性化を促進する場の提供③日本企業は高度技術社会になる、その枠組みに入れない人たちの居場所の提供④外国人との交流の場の提供	プログラム全般	B	
20	大変興味があります。機会がありましたら是非参加したいです。	プログラム全般	B	
21	温故知新	プログラム全般	B	
22	素晴らしいことです。期待しています	プログラム全般	B	
23	親が住みたくなるまちづくり。親が安心して仕事に行ける地域⇒子供を預かれる環境整備。親が安心して子育てができる地域⇒無料学習塾の開催(ボランティア)、子ども食堂	プログラム全般	B	

24	北区だけにかかわらず、京都市全体としてもっと強みを活かしたほうがいいと思う。特に北区は、全国においても有名な寺院や教育施設(大学)があり、北区民のみならず、全国から多数の方々がお越しになる。もちろん、関わっておられる方々のみに良い方向に向かわれると思う。私自身は関わっている仕事をしていないが、北区民歴50数年在住していて、その強みの関わりの薄さを感じている。それと、北区民のみならず、少子高齢化が進んでいる現状はいなめないし、これからももっと進行していくのは明白であるが故に、行政のお力で特に高齢者のための生きがいの発信や北区におけるビジョンをもっともつと区民に告知してはどうかと思う。	プログラム全般	B	
25	地域にいつまでも住み続けられるような施策を行ってほしい。	プログラム全般	B	
26	健康で安心していつまでも住み続けられるようにと誰もが願っていることであると思います。「北区民つながるプログラム」の実現に向かって区民みんなが関心を持って積極的に参加することが住みよい町づくり推進の基盤になるのではないかでしょうか。	プログラム全般	B	
27	住んでいる人みんなが北区の地域について関心を持つことが大事だと思います。	プログラム全般	B	
28	北区民が一丸となり、自然、文化、産業を目指すとともに区民の方々が自覚出来るような取り組みをしき(つなげる)をモットーに努力していかなければならないと思う。学生の街の北区、もっと商業都市になるよう希望します	プログラム全般	B	
29	・計画の枠組みとしてユニークであり整然としている。・更に優先度を示すことが必要(これから課題もある)・現象としてイベント実施となろうがプロセスが重要(よく討議する)・区内の地域性も考慮すべき(職住・商業・住宅、周辺各地域)・「北区計画」が前提であるが学区民にどのように啓発していくかが課題。・イベント、行事(学区も)の重点化をはかる。	プログラム全般	B	
30	大学生が北区の環境保全や企業との共同開発を行いやすくなるようなシステムがあつたら良いなあと思います。また、他府県出身の一人暮らしの学生は、ごみの分別を細かく行っている人が少ないと思うので、詳しく知る機会があればリサイクルも増えると思います。	「自然」とつながる	B	
31	ボランティアで山林の手入れ、保全のシステムを構築する。地主の管理など	「自然」とつながる	B	
32	快適な生活が送れる施設と自然の中で遊び学べる施設があれば若い人たちが集まるので	「自然」とつながる	B	
33	賀茂川上流(御園橋から上)での活動に向けてのプロジェクトも必要。植物園整備は見事ですが、まるで公園のごとく、きれいも大切ですが、自然のままを残すことも必要では。作りすぎない親しみ溢れる京都ならではの環境を望みます。	「自然」とつながる	B	
34	60歳以上が健康づくりに気楽に参加出来る場所(出来れば無料)で学区ごとにあれば良い。有料はたくさんある。	「自然」とつながる	B	
35	北大路のターミナル、ビブレの中庭の活用、例えば観光案内所等を作り、タウンの拠点として催しなどもふんだんにしてほしい。	「まち」とつながる	B	

36	北区でも少子化、高齢化が進み人口減少、まちでも空き家が増えている。若い人たちが他のまちにでていかないように、行政も力になって応援すればどうでしょうか	「まち」とつながる	B	
37	北区の少子人口減少という問題についてひとつ提言させていただきます。近年では、人口の減少した農村部などでは大規模な街コン(街全体で企画する合コンのようなもの)を開催することで、ある程度の人口増加に成功し、さらにメディアを通しての街の宣伝にも繋がった例もありますので、そういう出会いの場を作ることも選択肢のひとつとして良いのではないかと思いました。	「まち」とつながる	B	
38	空き家となった家を譲らず貸さず処分せず、そのままにしておく事が資産保存上良策として放置されている方々も多いのでしょうか。空き家対策でもし若い世代の入居が可能になったらもしそこに起業家拠点ができたら、もしそこで地域活動拠点として活用出来たら、立派な地域資産(無形)になるでしょう。空き家を提供くださる方々が、喜べる施策、税法上改革、地方条例等々、問題は山積みでしょうが、本気度を見せたいものです。	「まち」とつながる	B	
39	空き家の実態調査→家主との話し合い⇒有効活用 安心して生き、暮らせるまちを築くとか誰もが楽しく暮らし、優しさあふれるまちを築くとありますが、その為には空き家対策はぜひとも必要と思います。	「まち」とつながる	B	
40	賀茂川や神社など文化と自然を大切にして親しみやすい行事をしていただくと嬉しい。現在でも力を入れていただいていると思いますが参加者が少ないように思われます。	「まち」とつながる	B	
41	要は、地域コミュニティの活性化のため、何をすべきかということであり、幅広い年代の北区民が参加できる様々なイベントを通じて仲間づくりが構成され、少しずつでも話が広がっていくことが望ましいと考えます。そういう意味で北区民ふれあいまつりは良いイベントであると思います。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
42	北区には4つの大学があり、その学生の多くが居住しています。若い活力ある学生を地域の中に活躍できる場づくりを各自治会、町内が真剣に考える時ではないか。北区内にある企業にも地域参加していただいてはどうか。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
43	大学の多い地域もあるので、もっと地域の人々とつながりがもてるといよいよ思います。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
44	地域の連合等に所属していますが高齢だから、ボランティア(独居老人さんたちに関わる)に関わっています。若い人たちとつながり取組ができたら良い。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
45	学区ごとに特色があり、今まで続いてきた慣例をある一定の改革から始めてほしい	「地域コミュニティ」とつながる	B	
46	住民の連帯意識を高める取組があれば良いのですが。意識の改革が第一歩だと思います。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
47	地元に住む住民同士がつながるまちづくりを進める必要がある。特に高齢化や少子化が進む中での対策を考えることが大事。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
48	高齢化する地域と大学生などの若い人材をうまく連携してより良いまちづくりを期待しています。北区に住んでいてもまだ知らないことが数多くあるので、少しずつ発見していくと楽しいです。地道な活動に期待し応援しています。	「地域コミュニティ」とつながる	B	

49	学生が北区に住めるのは4年間が多く、その後住み続ける可能性は少ないと思う。地域がコミュニケーションをとりたくても大学側の個人情報などがある限り難しいと思います。が、地域行事に少しでも参加いただけるのは地域の人間としては嬉しいです。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
50	まず全員地域参加(町内会加入)が必要で第一歩でしょう	「地域コミュニティ」とつながる	B	
51	世代や立場を超えた人たちの定期的な集会が必要ですが、集会前に地域の人たちの意見の事前の集約が毎回必要だと思います。メールなどでの通達が便利かと思います	「地域コミュニティ」とつながる	B	
52	大学教員としては地域コミュニティに関して大学との連携が前面に出ていることは喜ばしいと思う。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
53	新旧の住民がわだかまりなく、共生できる方策を望みます	「地域コミュニティ」とつながる	B	
54	昨今、都市環境の急激な変化や情報の過多により、様々な問題を引き起こしております。また、少子高齢化が進み、地域内における人間関係の希薄化により、コミュニケーションも不足となっております。地域のコミュニケーションが円滑に作用している地区は何事にもスムーズに運ぶ可能性が大です。したがって、各地域に自治会という堅苦しい組織ではなく、役所と直結した組織を編成してからの北区基本計画を進めていく様にご提案します。もちろん、ボランティアとしての活動です。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
55	高齢化が進む中で、健康年齢を維持するための健康プログラム。大学と連携し、市民の学びの場つくり(市民公開講座)。地域のコミュニティづくりやご近所での助け合い(子育て世代の応援、お年寄りの見守りや語らいの場づくり)	「地域コミュニティ」とつながる	B	
56	私は今学生なので少し偏った意見になりますが、地域や社会と学生を繋ぐ場所を設けていただくとうれしく思います。それがあるかを知らない限り参加できないのでしっかりと我々住民は目や耳に入るような広報をしてほしいです。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
57	提案された18のプロジェクトに区民が関わることが大事であるが、その関わり方が提案次第でつながりの成果が問われると思う。地域コミュニティとのつながるについて充分な事前の話し合いが必要だと思います。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
58	自分の住んでいる町内でも一人住まい、二人住まい世帯を多く感じます。いろんなイベントでは世代・立場を超えて参加できる関係が必要だと思います。又イベントにしても市の広報・地域回覧等で知らせる事も大切だと思う。せっかくいろんな行事をやってでも知らないければ行く・参加するチャンスもない。今学生さんが地域に入って、商店街でのイベント等、清掃活動など色々な取組をやっておられるのはうすうす知っているが、どういう団体、どういう取組をやっておられるのか一般の住民にまで伝わってこない現状があると思う。私も知らないでいる。	「地域コミュニティ」とつながる	B	

59	私は昭和38年に大宮に移り住み当時人口3千人、1千3百世帯の学区でしたが現在人口1万7千人、7千世帯5倍以上の大好きな学区になりました。最近の減少は地場産業の低迷による(西陣織)中心部の空洞化が原因していると考えられます。人口12万人の約4割近くが北の3学区(大宮、桜野、上賀茂)に集中しておりますし、大宮では半数近くのご家庭が町内会に所属されておりません。大変危惧を感じています。地域の役員の方々と何か良い案がないか話し合っています。私もあと1年半で80才になりますが、これからも身体のつづく限り、地域の子どもたちの安心、安全、健全育成に少しでもお役に立てるようつとめて行きたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
60	「地域コミュニティとつながる」にはまず地域コミュニティの見える化・強化が大事！町内会に入らない人が増えています。学区ビジョン云々よりもまず楽しく「町内会入ろうキャンペーン」から始めましょう。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
61	地域のイベントが大事	「地域コミュニティ」とつながる	B	
62	若い世代、特に北区に多い大学生を活用したプログラムを推進し、卒業後も北区の地域と長くかかわれるような環境を整えていく	「地域コミュニティ」とつながる	B	
63	京都市景観まちづくりセンターのボランティア活動で「桜野学区のまちづくり」にかかわった経験から「これまで気づかずいた自分の住む地域の良さを発見することの大切さを学びました。自分達の住むこの素晴らしい生活環境を後世に残せるよう、お手伝いできればと思っています。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
64	幼・小・中・高それぞれで親の悩みは違う。その時々で力をかりられる場が必要と思う。それなくして、ひとつとびに大学・学生・地域はつながらないと思う。	「地域コミュニティ」とつながる	B	
65	集会所(会館)があれば良いですが。鞍馬街道を広く両側に歩道があれば良いです	プログラム全般	C	
66	地下鉄を宝ヶ池から市原の焼却場を通り加茂川を南下して産大、上賀茂神社、北大路ターミナルを通してください。	プログラム全般	C	
67	北区全体が環境の良い所と京都市民が思っている景観保全、まち美化、第一種低層住居専用地域などをもっと行政が力強く押してより良い北区にして頂きたい。また、紙屋川砂防ダム内の住宅の早急なる退去をして頂きたい。中川、小野郷等の土地利用にて農園花づくり等の利用ができれば人々の感じが増すと思います。	プログラム全般	C	
68	カン、ペット、プラの回収場所も燃えるゴミと同じように道路に出しておけばよい様にしてほしい。指定場所まで少し離れているので近くにして頂けるとありがたいです。少しぐらいの落葉なら、庭の一部で燃やすことを許してほしいですが。	プログラム全般	C	
69	魅力ある北区に、北部の開発と交通網の充実をすることで多くの人が北区へ移住すると思います。旧住宅の美しいまちに区画整理を、道間拡大と高齢者が歩ける環境を整備してください	プログラム全般	C	
70	御園橋が広くなり、車が上賀茂地区へ多く入ってくる。この車をどうするのか	プログラム全般	C	

71	具体的な方策を簡潔に住民に提示すべき。一部の人々の間だけでは役所マスターべーションに陥ってしまう	プログラム全般	C	
72	・独居の高齢者の夜間が不安。解決すること。・迷惑をかけている会社等を追い出してほしい	プログラム全般	C	
73	地域格差をなくせるように努力してください。楽只と格野、大宮、その他の小学校区とあまりに違すぎる。住民主導というが、この辺りが昔から難しい地区であることは行政も御存知のはず!!地元民だけでは解決しにくい。何とかしろ!!	プログラム全般	C	
74	自分なりに理解できたとは思いますが、反面、具体的には見えて来ない。	プログラム全般	C	
75	交通の便を良くし、老人にも住みやすい環境つくりを考えほしい。	プログラム全般	C	
76	道路整備、特に巾拡に重点を置くこと。	プログラム全般	C	
77	区民としての動きは日々生活をしていて何も感じる事がありません。区としては何をしているのか、市として何を、又、府としてはとか我々皆に解りやすくして知らせてほしいです。市政と府政の二つはいりません。もっと人を減らして一本化するほうが良いと思います。まして区政がどんなになっているのか全く分かりません。	プログラム全般	C	
78	18のプロジェクトが抽象的	プログラム全般	C	
79	住みよい安全なまちづくりで①道路幅の狭い道路の電柱を年次計画的に撤去。地下に埋設する。(交通安全上)防犯灯の増設、監視カメラの増設②タバコのポイ捨てをなくする(ポケット灰がら入れを愛煙家に配る)③野良猫の放し飼いをみんなで監視し、保健所に連絡する。	プログラム全般	C	
80	今なお被差別地域のあたりを「怖い」「近寄ってはいけない」という根も葉もない感情が根強く残っています。市営住宅が改築、取り壊しになるこ5年間。取り壊しのある市営住宅の跡地に大規模な福祉施設(たとえば1Fは高齢者施設と保育所等が行き来でき、2F以上や体育館・プールは誰もが通える福祉施設にする)を作り、差別の心は個々の心の中から生じるものであった。その土地に根ざしたものではないという学びの場にしてほしい	プログラム全般	C	
81	質問の内容が難しくうまく回答できません	プログラム全般	C	
82	ここ2、3年年末年始のごみ収集日の「お知らせ」がさっぱりわかりません。市民しんぶんはちゃんと届けてもらっているのにです。こんなのいやです。	「自然」とつながる	C	
83	・地域に産業がほしい・この設問以外にもっと底辺の事がらに多く考える事柄が多くある。・林業で生計が立てられる様になってほしい。・地域振興、林業経済の向上に少なからず取り組んでいるが引っ張る人多くなやんでいる。・山の中の現状を部外の外に知ってほしい。水害が起こるのは人災だと思う。	「まち」とつながる	C	

84	昔、学生のまちとして活性化した京都の面影が薄らいでさびしく感じている今日この頃です。自給自足、助け合いの日本の原点の底力を発揮できるよう、高齢者への助けが=仕事となっていくような若者の意識改革ができ、行政が若者を支援するようになればいいのにと思っています。御園橋通りを守り続けてくださっている商店街チームを応援してください。	「地域コミュニティ」とつながる	C	
85	様々な形があるなかで、第一に地域住民の中から、いかに懸命なリーダーを選出できるかに…。その度量が…。	「地域コミュニティ」とつながる	C	

対応 A	9
対応 B	55
対応 C	21
合計	85

中学生が描く10年後の北区
北区つながるワークショップ
～未来を語る会～



平成27年7月、北区民まちづくり会議の委員と北区内の中学生が集まり、大学生が進行役となって10年後の北区について「あつたらしいな」「こうなったらしいな」と思うことや、未来に継ぎたい資源を「自然」「まち」「地域」に分けて話し合いました。そのワークショップで描(書)かれたイメージを掲載しています。

北区基本計画

北区民 つながる プログラム

これから5年間のまちづくり

資料3



メッセージ

メッセージ	1
「北区民つながるプログラム」について	2
「自然」とつながる	5
「まち(産業・文化など)」とつながる	7
「地域コミュニティ」とつながる	9
「北区民つながるプログラム」を進めるために	11
「北区民つながるプログラム」が掲げるまちづくりの目標	12
「北区民つながるプログラム」ができるまで	13
北区民まちづくり会議委員名簿	14

市長メッセージ



京都市長
門川 大作

これからこの「北区民つながるプログラム」を基に、区民の皆さんとの「自分たちのまちを自分たちの力で良くしていく」という熱い気持ちに支えられた「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりが大きく前進していくことを念じています。

「自然」や「まち」、「地域コミュニティ」など北区ならではの魅力、強みを生かし、多くの方々に「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と心から実感いただけるまちの実現へ、共々に力を合わせて取り組んでいきましょう。

区長メッセージ



北区長
長谷川 淳一

このたび、北区を愛する方々の熱い思いが詰まった「北区基本計画—これから5年間のまちづくり—北区民つながるプログラム」が完成しました。御協力いただきました多くの皆様に、心からお礼申し上げます。

平成27年に区制60周年を迎えた北区では、「人口減少社会」や「まちの安心安全」など今日的な課題への対応について、北区民まちづくり会議など様々な機会を通して議論してまいりました。その最大成として取りまとめた、このプログラムでは、「つながる・つなげる」をキーワードに、北区の未来を切り拓いていく「18のプロジェクト」を盛り込んでいます。

このプログラムを区民の皆様や大学、事業者等の方々と連携した「チーム北区」として「Link 北区」を着実に進め、「暮らしてみたい」「住んでいて良かった」と実感できる北区を築いてまいります。

座長メッセージ



北区民まちづくり会議
座長
市川 貢

「北区民まちづくり会議」では昨年度より、今後5年間で優先して取り組むべき重要な課題について議論を重ねてまいりました。会議では「北区民つながるプログラム」として素案を示し、区民の皆さんのご意見やご提案を反映する形で取りまとめました。

このプログラムでは、北区が目指すまちの将来像の実現に向けて、区民の皆さんのが主導的にどう取り組めばよいのかをわかりやすく説明しています。皆さん、まずは参加・協力することから始めましょう！

「北区民つながるプログラム」について

1 はじめに

北区民まちづくり会議（座長：市川貢、京都産業大学経営学部教授）では、「北区基本計画—はつらつ北区プラン—」^{※1}に掲げた10の分野（「環境」「地域活動」「生涯学習・文化活動」「産業」「観光」「大学」「子育て」「健康安心」「生活基盤」「北山三学区」）の73の主要な取組例の全てについて着手したことに加え、計画策定から5年目を迎える、また北区制60周年を契機とした北区のまちづくりの更なる発展を図るために、今日の課題である「人口減少社会への対応」や「安心安全のまちづくり」の推進、地域コミュニティの担い手としての学生をはじめとする「若者」や「子育て世代」等の地域活動への参加・参画の促進を視点に議論してきました。

また、市政の重点施策である、「もが安心安全に暮らし、観光できる、優しさあふれるおもてなしのまちを築く」「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」市民ぐるみ推進運動や、人口減少社会の克服や一人ひとりが笑顔で、安心して生き、暮らせるまちを築く「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」、市民ぐるみで健康づくりに取り組む機運を高めていく「健康長寿のまち・京都」の推進に向けて、区民の皆さんと行政が主体性を持ちながら連携し、取組を進めています。

「北区民つながるプログラム」は、「つながる・つなげる」をキーワードに、市政の重点施策と課題を共有しながら、北区が目指すまちの将来像の実現に向けて、区民^{※2}の皆さんのが主導的に取り組むためのプログラムです。区民の皆さんと北区の資源（＝「自然・まち・地域コミュニティ」）とが、「知る・触れる・関わる」3つの段階を経てつながることで、北区の地域力が向上することを目指し、区民の皆さんのがみんなで取り組む今後5年間のまちづくりを18のプロジェクトとして取りまとめました。

北区が目指すまちの将来像の実現

「豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、人々がお互いに支え合い、活力を持って生き生きと暮らすまち」



*1 北区基本計画：平成32(2020)年度を目標とした10年を、どんなまちを目指すのか、それを実現するためにどうすればいいのか、北区のまちづくりを進めるために区民の皆さんと区役所が共有する長期的なビジョン（指針）です。

*2 区民：北区基本計画では、北区に通勤する人、通学する人など北区で活動する人も、北区のまちづくりにかかわる一員となっていましたことを期待して、区民に含めることとしています。

2 進める視点

地域での「つながり」が改めて必要とされています。

北区基本計画が策定されて5年目を迎える間、少子・人口減少社会の顕在化や、東日本大震災の発生など、私たちの暮らしに関わる大きな社会状況の変化がありました。

北区でも、人口が12万人を下回り、今後も減少すると予測されています。少子化・高齢化が進み、地域の担い手である若い世代が更に少なくなることは、地域コミュニティが弱まるにつながり、豊かで安心な暮らしを育んできた、まちづくり活動の充実や安心安全の取組の継続が危惧されます。そのため、健康寿命の延伸はもとより定年を迎えたシニア世代、子育て世代、学生や若者など多くの世代のまちづくりへの参画が、ますます求められています。

- 少子・人口減少社会 北区内人口：平成22年122,037人（国勢調査結果）▶平成27年119,537人
- 地震や風水害の顕在化：平成23年3月東日本大震災、平成25年9月台風18号、平成26年8月台風11号
- 北区内5大学・短期大学の学生数：平成27年 48,950人（8,068人 通信教育課程含む）

3 目指すもの

一人でも多くの来訪者や区民の皆さんが、北区の豊かな資源とつながり、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感することです。

多様なまちづくり活動が行われることによって、北区の資源（＝「自然・まち・地域コミュニティ」）が活かされ、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」と実感できる魅力的なまちを育むことができます。

- 北区の豊かな資源 「自然」：北山や賀茂川、田畠や天然記念物など
- 「まち」：地域特性を活かした文化や産業
- 「地域コミュニティ」：地域活動で培われてきた住民相互のつながり

4 取り組むこと

区民の皆さんと北区の資源をつなげるために、「知る・触れる・関わる」機会を増やします。

区民の皆さんと北区の資源がつながる機会を、「知る・触れる・関わる」という段階に分けて整理し、これから北区のまちづくりにつながる18のプロジェクトとして提案します。

●資源とつながる段階 まずは「知る」：溢れる情報を整理し届けます
つぎに「触れる」：色々な体験の機会をつくります
そして「関わる」：区民の皆さんを取り組める仕組をつくります

●18のプロジェクト = 3つの資源「自然・まち・地域コミュニティ」
×
3つの段階「知る・触れる・関わる」（段階ごとに2つの提案）

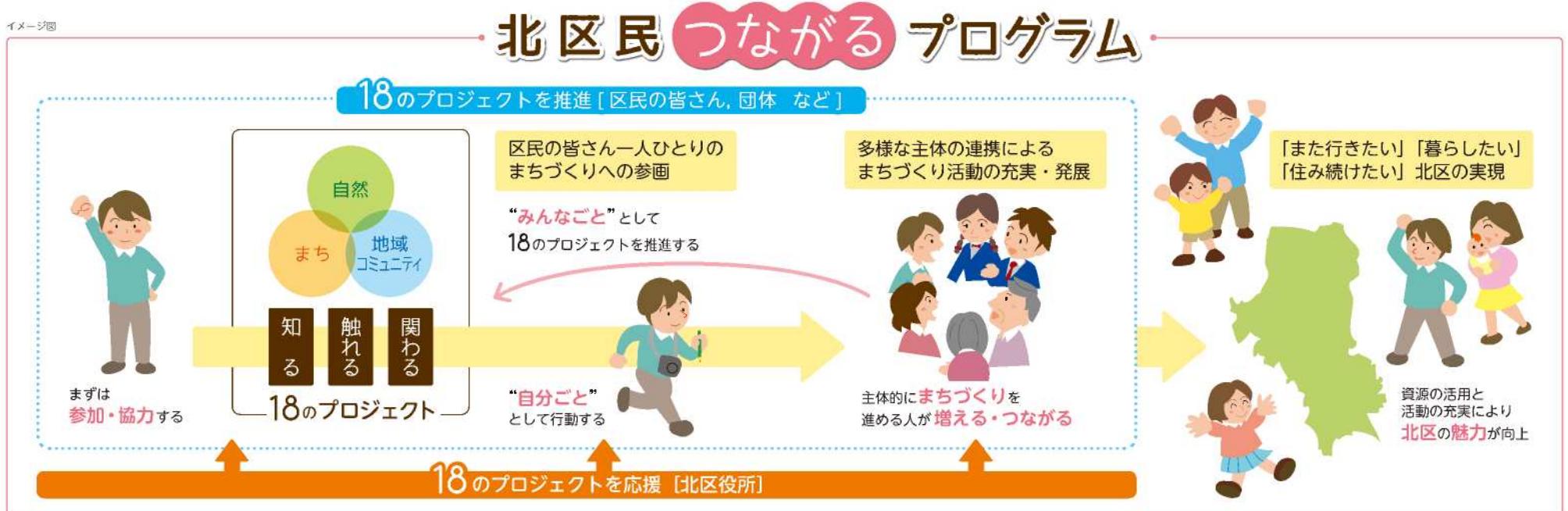
5 実現のために

区民の皆さんが「自分ごと」「みんなごと」として主体的に相互に連携することで、これから北区のまちをつくっていきます。

これまで北区のまちづくりは、区民の皆さんと行政、団体や事業者の方々などが主体性を持ちながら協力し、共につくりあがけてきました。

これからは、「つながる・つなげる」をキーワードに、区民の皆さんと行政が共に行動する「共済型」のまちづくりを更に進め、18のプロジェクトを通じた、自分の力で自分たちのまちを良くしていく「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを進めていきます。

イメージ図



「自然」とつながる



現状

北山や賀茂川、船岡山や深泥池などの豊かな自然を有する北区。そうした豊かな自然は、自然環境の維持活動や、農林業に携わる人たちの仕事や暮らしの中で守られてきました。

しかし、少子・高齢化の急速な進展や生活環境の変化により、自然を育んできた担い手が減少することで、山の荒廃や休耕田の増加に留まらず、倒木や土砂災害、河川の氾濫など自然災害の発生が危惧されます。

目標

自然に関わる仕事を持つ人だけでなく多くの区民の皆さん、健康増進や子育て、高齢者福祉などの多様な取組に自然環境を活かし、また関心を持つことで、豊かな自然を未来へつなぎます。

環境や自然について考える



食べたり歩いたり、近くの自然に触れる



環境保全や地域活性に向けて活動する



知る

1 北区の木、森、川、田畠などの自然に関わる仕事や暮らしを知る！

▶ 小野郷・中川・雲ヶ畑の魅力を発信するウェブサイト「北山三村」の認知度を高め、北区内の農林業の他、動植物についても学ぶ機会をつくり、自然と寄り添った豊かな暮らしや活動について、関心を持ち交流・共存するためのきっかけをつくります。

2 身の回りの環境やごみ問題への関心を持つ！

▶ 不法投棄防止や美化啓発の取組の推進、また、エコまちステーションなどの相談できる窓口の認知度を高めることで、山や河川、田畠、公園に捨てられるごみについて知り、出さないこと、捨てないことを当たり前にしていきます。

触れる

3 健康づくりに向けて、北区の自然に触れる！

▶ 北山や賀茂川の自然、呂屋さんなどの店舗を、ドにつなげ、ウォーキングコースを設定するなど、健康取組を進めます。

4 子どもや子育て世代が、自然に触れる機会をつくる！

▶ 親子で、自然や農林業について学ぶ機会をつくれ、学び育つ環境を整えます。

関わる

5 山間地との持続的交流を進める！

▶ 「北山三学区まちづくりビジョン（平成26年3月策定）」に基づき、地域が進める交流人口の増加に向けた取組に、多くの人が主体的に関わる機会をつくります。

6 豊かな自然環境の保全・継承に向けて関わる！

▶ 自然環境の保全・継承につながる活動を身近に感じ、気軽に参加や協力できる機会をつくります。

「まち(産業・文化など)」とつながる



現状

世界遺産に登録された金閣寺や上賀茂神社などの優れた文化財を有する北区。賀茂なすや鷹峯とうがらしなど京の伝統野菜の産地であり、北山杉や西陣織なども引き継がれています。また、昔ながらの町並みや商店街、地蔵盆、振り売りなど、暮らしの中で産業や文化が育まれ、何世代にもわたり受け継がれてきました。

目標

古くから住む人や新たに暮らし始めた人、留学生、通勤通学で通う人や観光で訪れる人が、北区ならではの産業や文化を身近に感じることで、日々の暮らしや観光に活かし、次代に継承します。

周りにある産業や文化を考える

歴史や文化を、まち歩きなどで体験する

産業や文化を、日々の暮らしや観光に活かす



知る

7 多様なまちの魅力を知る!

▶情報誌には載らないような文化や歴史を、コミュニティラジオやSNS*1などを通じて区民からも発信することで、魅力を伝え身近に感じるためのきっかけをつくります。

*1 SNS: ソーシャル・ネットワーキング・サービス。インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと。

8 公共交通や公園などの有効な使い方を考える!

▶公共交通利用促進や、公園や居場所に関するマップづくりなど、情報を整理し発信することで、公共のものを利用しやすくするとともに、区民の皆さんとの関わりによって身近で魅力的なものにしていくきっかけをつくります。

触れる

9 地域の歴史文化に触れる!

▶観光マップやまち歩きんや来訪者が、身近なところにあるまちの魅力や文化に触れる機会をつくること、地域ごとに文化や歴史を育み継承する機会づくりを進めます。

10 産業や文化を身近に取り入れる機会をつくる!

▶歴史の中で培われてきていて、体験や出会い、くことで、本質を深く知り、身近な暮らしに取り入れることにつなげていきます。

関わる

11 何度も訪れる仕組みをつくる!

▶体験型観光プログラム(着地型ツアー*2)など、普段は体験できない学びの仕組みをつくることで、北区の歴史文化の奥深さを発信するとともに、何度も訪れるファンづくりにつなげていきます。

*2 着地型ツアー：地域ならではのプログラムを企画し、参加者が現地集合、現地解散する新しい観光の形態

12 空き家を活かして、暮らしや文化に関わる!

▶空き家を、子育て世代や学生・留学生の定住促進、ゲストハウスとしての利用など、積極的に活用することで、地域に賑わいを生みだすとともに、防犯防災にも役立てます。



「地域コミュニティ」とつながる

現状

みんなが安心安全に暮らしていくために、地域住民によるまちづくり活動が日々盛んに行われている北区。防災訓練や地域行事、清掃活動や挨拶など、普段のお付き合いを起点にあたたかな関係が育まれてきました。

しかし、空き家やワンルームマンションの増加、核家族化や高齢化の更なる進展、共働き・一人暮らし高齢者世帯の増加など地域の在り方が変化したこと、地域コミュニティの活動の担い手が不足して活動が衰退し、地域のつながりが希薄化することが憂慮されます。

目標

新たな地域コミュニティの担い手である学生や若者、子育て世代や定年を迎えたシニア世代などが、地域活動や組織に参加することで、子どもや高齢者の見守り活動、防犯防災の取組などが充実した、安心安全で暮らしやすいまちを継続します。

地域活動について考える

ご近所さんに、挨拶する

みんなと一緒に、地域で活動する



知る

13

移り住んだ人も、地域活動を知る！

▶町内会加入情報や地域活動、暮らしに根付いた文化を、冊子やホームページなどで紹介することで、地域盆など受け継がれてきた地域の文化や活動に、新しく移り住んできた人が関わるきっかけをつくります。

14

大学、学生と地域が、お互いを知る！

▶大学入学時や北区への転入時に、暮らしの手引きや地域情報を提供するなど、大学と地域がお互いの事業や取組に関して情報共有し、大学、学生と地域が関わるきっかけをつくります。

触れる

15

大学、学生の力を地域課題解決につなげる！

▶大学の研究成果や学生がマップづくりやまち歴史や現状を学ぶ機会の力を地域に活かせるよう、学生歩きなどを通して地域と交流し、をつくります。

16

世代や立場を超えた地域での関係をつなげる！

▶地域活動の担い手となる地域とのつながりを必要が、様々な活動や団体で触れる環境を整えることで、地域での暮らしにおいて、をつくります。

関わる

17

大学と地域が関わりあう！

▶地域が大学と関わるときにも、大学が地域と関わるときにも求められる、関係を仲介する人や仕組について検討することで、交流や活動が継続することにつなげます。

18

学区ビジョンの策定などを通して地域活動や自治会に関わる！

▶これまで地域活動に関わりが少ない若者や事業者に自治会の加入を促し、また、定年を迎えたシニア世代、子育て世代等を含めた幅広い住民が、地域の特性を活かした学区ビジョンづくりに参加、参画することで、新たな地域活動の担い手づくりを進めます。

「北区民つながるプログラム」を進めるために

『北区民つながるプログラム』が掲げるまちづくりの目標

自分のこと=自分たちのこと=○○○○=・・・・=北区（みんな）のこと

『北区民つながるプログラム』では、「また行きたい」「暮らしたい」「住み続けたい」北区の実現に向けて18のプロジェクトを提案しています。これからの北区のまちづくりを進めるために、全ての区民の皆さんの参加と協力により、これから約5年間（平成28年度～32年度）でプロジェクトを進めていきます。

自分一人でできることから、身近な仲間とできること、地域や団体でできることなど、まちづくりと一緒に進めていきましょう。

1 18のプロジェクトを進めるために

『北区民つながるプログラム』で提案した18のプロジェクトは、区民の皆さんのがんばりから興味や関心があるものを選び、まずは自分でできることから進めていくことで、活動を通じて身近な地域や北区を知り、愛着を深め、主体的に行動していく「自分ごと」のまちづくりを目指しています。

また、地域や団体の方々は、日々の活動での知恵や力を活かして、18のプロジェクトに取り組むことで、多様な主体とつながる機会を増やし、仲間の増加や活動の充実につなげる「みんなごと」のまちづくりを目指しています。

一人ひとりができることから、地域や団体での取組など、多様な主体によりプロジェクトが実現すれば、多くの区民の皆さんが北区の豊かな資源と出会い、日々の暮らしを充実させることにつながります。

2 18のプロジェクトを支える北区役所の役割

区民の皆さんのがんばりで進める「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを応援するために、行政と地域が連携して取り組んできた共創型のまちづくりを史に記されています。

「知る」を応援

地域や団体、区役所からの情報など、まちづくりを知る機会はたくさんあります。

これからは、新たな情報媒体の構築や多様な情報の集約・整理などを行い、必要な情報が適切に伝わるように取り組みます。

主な事業 send a smile プロジェクト、コミュニティラジオ・SNS を活用した情報発信、
【新規】地域コミュニティ加入促進（応援プロジェクト）

「触れる」を応援

地蔵盆などの地域行事や、区民の皆さんがみんなで取り組むイベントなど、日々たくさんの取組が行われています。これからは、地域や団体での既存の活動や、18のプロジェクトに沿った新たな取組などに、より多くの区民の皆さんが触れ、活動に関心を持てるような取組を進めます。

主な事業 北区民ふれあい事業：「北区民ふれあいまつり」・「北区魅力再発見事業」・「北区民ふれあい発表会」
ニコニコ 北っ子事業：「親子で楽しむコンサート」・「親子で学ぶ京の旬野菜クッキング」・「こどものまち」「すくすく赤ちゃん広場」

「関わる」を応援

地域活動や市民活動など、まちづくりを進めるたくさんの取組主体があります。それらの取組主体の交流の機会を設け、活動に対する助成制度によりまちづくり活動を支援するとともに、新たにまちづくりに参加・協力をする方が増えないように取り組みます。また、『北区民つながるプログラム』の推進組織を作り、地域を核とした北区のまちづくりを推進します。

主な事業 北区つながるワークショップ、北区民まちづくり提案支援事業、
みんなでつくる安心安全なまち北区運動プログラムの推進、
【新規】学区まちづくりビジョン策定（応援プロジェクト）、【新規】北区未来につながる区民会議の創設、
【新規】北区TWA（わ）のこころ創生ネットワーク会議の創設

市政の重点施策と緊密に連携しながら、『北区民つながるプログラム』に取り組むことにより、平成32年度までに次のことを目指します。

◆北区で「暮らしたい」「住み続けたい」と実感できる魅力的なまちを育むことで、人口減少に歯止めをかけることを目指します（平成27年度：11.9万人⇒平成32年度：12万人）

◆地域コミュニティ活性化のため、自治会等加入率の向上を目指します（平成24年度：72%⇒平成32年度：80%）

◆地域まちづくりの指針となる「学区まちづくりビジョン」を、多様な地域コミュニティ組織の参画の下、全ての学区（18学区）での策定を目指します（平成27年度：4学区⇒平成32年度：18学区）

—「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりを進めるためのおすすめ情報—

☑まちづくりに関する情報が集まるところ

施設／北区役所、北青少年活動センター、北区社会福祉協議会、北いきいき市民活動センターなど
情報／市民しんぶん北区版、北区役所配架コーナー、北区役所ホームページ、
自治会町内会＆NPOおうえんポータルサイト、北山三村（北部山間地域のホームページ）、
きたく資源発掘センター（北区のまちづくりや、文化・産業・観光等に関わる魅力を広く発信するホームページ）、
NPO法人コミュニティラジオ京都（RADIO MIX KYOTO）、
区民交流スペース、地域の交流サロンTAMARIBA、季刊フリーペーパー「北区じかん」など

☑まちづくりに触れる各地域や北区の取組

地域／地蔵盆、夏祭り、学区民運動会など
区内／北区民ふれあいまつり、北区魅力再発見事業、北区民ふれあい発表会、FUNAOKA STANDARD、
北コミまつりなど

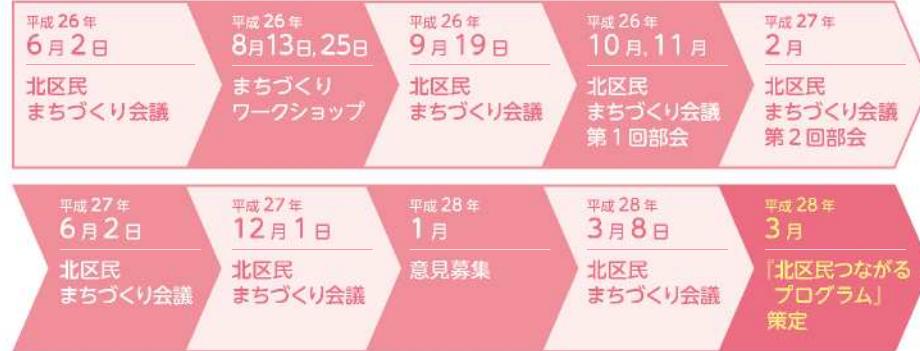
☑まちづくり活動を支援する北区の取組

北区つながるワークショップ、北区民まちづくり提案支援事業など



「北区民つながるプログラム」ができるまで

策定の経過



北区民まちづくり会議委員名簿 (平成28年3月現在)

氏名	所属等	所属部会
座長 市川 貢	京都産業大学経営学部教授	一
副座長(部会長) 志籠 修史	大谷大学文学部教授	福祉・中山間
副座長(部会長) 島田 昭彦	京都精華大学非常勤講師	文化・観光
副座長(部会長) 谷口 浩司	佛教大学社会学部教授	大学・まちづくり
副座長(部会長) 宗本 晋作	立命館大学理工学部准教授	環境・都市デザイン
池田 徳治	京都市農業協同組合上賀茂支部長	環境・都市デザイン
内田 雅子	洛陽保育園理事長	福祉・中山間
加畠 美奈	公募委員	環境・都市デザイン
小泉 岳志	京都市小学校PTA連絡協議会北下支部理事(楽只小)	大学・まちづくり
佐々木徳昭	北区「人づくり」ネットワーク実行委員会委員	文化・観光
田井 祥文	北山街協同組合代表理事	文化・観光
高奥 英路	紫竹自治連合会会长	環境・都市デザイン
田中美保子	御薗橋801商店街振興組合理事長	大学・まちづくり
田中安比呂	賀茂別雷神社宮司	文化・観光
谷口みゆき	京都「おやじの会」連絡会幹事	大学・まちづくり
中村 アヤ	公募委員	文化・観光
林 正則	紫野カルチャー亭運営協議会会长	福祉・中山間
福永 泰正	新大宮商店街振興組合理事長	環境・都市デザイン
福村 毅之	北大路商店街振興組合理事長	環境・都市デザイン
渕上 佑樹	理想の森プロジェクト代表	福祉・中山間
星野 宏	株式会社淡交社総務部長	文化・観光
森 貞子	北区社会福祉協議会会长	福祉・中山間
森下 武洋	京都北山丸太生産協同組合理事長	福祉・中山間
森下 徹	北区市政協力委員連絡協議会世話人代表	大学・まちづくり
吉田 光一	株式会社フラットエージェンシー取締役会長	大学・まちづくり

前委員

氏名	所属等	所属部会
鎌田 泰正	京都市小学校PTA連絡協議会北上支部理事(大宮小)	大学・まちづくり
日下部 潔	京都「おやじの会」連絡会幹事	大学・まちづくり
本田 秀一	北区市政協力委員連絡協議会世話人代表	大学・まちづくり



発行：平成28年3月
京都市印刷番号第273212号
北区役所地域力推進室 [電話]075-432-1199

今後の北区まちづくり推進組織イメージ

資料4

